



(復刊21号)

☆☆☆☆☆  
年頭の御挨拶と共に

☆☆☆☆☆  
吉岡ふゆ

会員の皆様新年お目出度ござい  
す。たしか昨年も新春にこの欄を受持  
つ番であったと思いますが全く一年と  
いう月日は考えようで早いようでもあ  
り、また永いものでもありません。年々  
方々誰方も同じだと思われませんが大  
日の徐夜の鐘を聞いて元旦だと意識し  
た時の感じ、或は早寝して醒めた朝の  
瞬間は微塵の邪念もなく一年中で最高  
美しい明鏡の域にあります。元氣な人  
のはまだ暗いうちから神社に詣でてど  
うぞ一年中よい年でありますようにと  
祈りをこめるその時の心境は善人のみ  
であります。

田舎育ちの私、幼い頃父がこの朝特  
別早起きして井戸端で洗顔がすむと滅  
多に着ない黒紋付に袴と替えて日の出  
の太陽に向って拍手を打ち高天ヶ原の  
神式ののりと祈願を称えたことが今で  
も心に浮ぶのであります。

さて吾が日本女医学会も、今年も会員  
も倍増し平和にそして会にふさわしい  
活動が出来ますようにあり度いもので  
す。このような希望はもう毎年のよう

吉岡ふゆ

に繰り返して叫ばれたものでしたが会  
員は全国に散在し環境も異っているな  
どの点で中々一致した行動がとれない  
のが難点、これという仕事も出来兼ね  
ていましたが今年も幸先きよく、女  
医に最適の、然も平易で、全国どこ  
も必要視されているテーマが実現する  
見通しがつきました。別項大村理事の  
詳述されるように参議員の山本杉姉が  
理事長をされている日本母子衛生助成  
会主催の「初潮の早期来潮の実験」に  
私共が協力するの議が昨年十一月の日  
本女医会理事會並臨時評議員会で満場  
一致で決められたのであります。御承  
知のように初潮は段々早くなる傾向で  
二―三十年前は十四才となつていまし  
たのに特に最近では急激に進進して十  
―十二才で半数は来潮となせている状  
態です。是れに供えて本人及び本人と  
最も近親感のあるお母さん、それに女  
教師、又は保健衛生婦の三者の集りに  
私共女医が説明役を提供するわけで  
す。実際は各地で校医をされている方

も沢山あり、たとえ校医でなくともこ  
のような依頼を受けてこの任を果され  
ている方も多くと存じますが、このよ  
うに組織立つて全国的に実施するとい  
うところに意義があります。私も昭和  
十年頃から大戦の烈しくなる頃まで自  
製の画など抱えて都内、都外の衛生講  
話、そして初潮の年代に供えて話して  
廻つたものでした。会員の皆様今年以  
後このような機会がありましたら進ん  
で御参加下さい。

尚私の乏しい経験で年は共に十四才  
で一人は妊娠五ヶ月で母親知らず、入  
学身体検査で検査医が発見したもの、  
他の一人は己に七ヶ月相当、之れはふ  
と母が気付いたものでこのように初潮  
があれば妊娠可能年令？少女は知るや  
知らずや、まゝごと遊びぐらゐに思つ  
て性遊びなどの無いように、この初潮  
の話の機会に巧みに性教育の一端にも  
触れ、同時に母親への注意を喚起され  
るようにならしてはどうかと思うので  
あります。女医の手を待つ仕事は段々  
と出て来るでしょう。会員諸師の御健  
闘を祈ります。(一月十五日記)

× × ×  
子どものしごととねがい

宮坂登志子

子どもの第一の仕事である東京小児  
療育病院の経営は昨年四月二十六日に  
本院を開院し現在一〇八名の脳性麻痺  
患児を収容している。財政は予想以上  
の赤字である。赤字の出でくる最も大  
きい理由は基準看護では患児四人に対  
し一人の看護婦と定められているが、

子どもの病院では一人の患児に一人の  
看護婦をつけなければならぬから  
だ。

一対一で療育し環境を豊かにしなけ  
れば重い沢山の障害をもつた乳幼児の  
治療や訓練効果をあげること、また豊  
かなパーソナリティーをそだてるこ

とは不可能である。  
病院の運営は予想通り大変困難では  
あるが、一般社会の人々の強力なご支  
援と職員のおしみな協力にささえら  
れて一歩一歩成長している。

子どもの第二の仕事である脳性麻痺  
研究所の開設は昨年四月に着手し、ま  
もなく完成する。この研究所の専長は  
科学の専門領域の垣をこえ、基礎、臨  
床をふくめ一つにとけあつて研究して  
ゆくところにある。幸い多くの脳性麻  
痺研究者のご賛同とご協力がえられて  
いる。

私どものような微力の者のあつまり

第十回日本女医会総会旅行

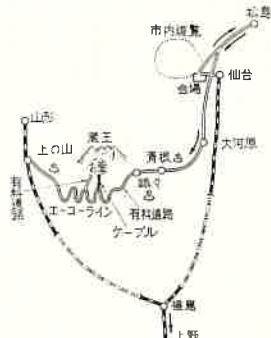
日本女医会総会が左記の通り開  
催されます。

日 時 昭和四十年五月十五日  
場 所 宮城県仙台市  
宮城県支部の御厚意で総会後観光  
旅行が計画されました。五月は旅  
行シーズンでもありませんので、準  
備の都合上旅行に御参加になられ  
ます方は同封の私製ハガキを御利  
用の上、ABCコースのいづれか  
希望する旅行案を○でかこみ、来  
る三月二十日までに御返信下さる  
ようお願いいたします。

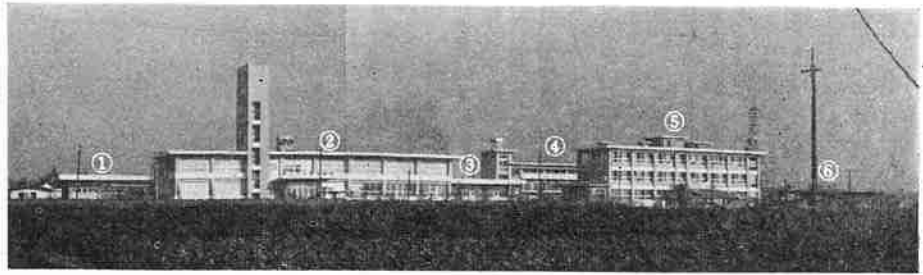
正 午 峨々着(山菜料理で昼食)  
午後一時 出発(エコーラインで  
お釜を見る時間が充分  
あります)

五月十五日 午後二時開会(総会)  
於 日立ファミリースタター六  
階会議室(仙台駅より歩い  
て三分)青葉通り  
午後四時閉会 仙台市内遊覧(貸  
切バス)  
午後六時 松島大観荘着(懇親会  
並宿泊)  
午後九時 閉会  
五月十六日 松島  
午前九時 松島発(貸切バス)

午後四時 上の山着、又は泊  
Aコース 五月十五日仙台(会議)↓  
松島(懇親会)↓仙台(夜行で帰郷)  
Bコース 五月十五日仙台↓松島(一  
泊)↓五月十六日峨々↓エコーライ  
ン↓上の山(夜行で帰郷)  
Cコース 五月十五日仙台↓松島(一  
泊)五月十六日峨々↓エコーライ  
ン↓上の山(一泊)自由解散  
費用 A二千五百円、B五千円  
C七千五百円)



社会福祉法人鶴風会 東京小児療育病院及脳性マヒ研究所



① 病棟の一部 ② 管理棟 ③ 病棟の一部 ④ 職員宿舍 ⑤ 脳性マヒ研究所 ⑥ 動物舎

でこの二つの仕事をひきつづいておこなうことは無謀だといわれて来た。しかしにそうである。しかし開院以来外来をおとすれた一〇〇〇人に達する患児と、一〇八名の入院患児に接している。と、どんな困難があっても医学をおさめたわれわれとしては、脳性麻痺の治療法および予防法の確立のために一日も早く研究を推進すべきであるといふ確信をふかめている次第である。

以上二つの仕事は、今日迄の多くの方々のご援助によって出来たものであり今の運営もまたご援助をえなければ出来ない事情にある。われわれは今後一方では東京小児療育病院を脳性麻痺の専門病院として充実させ、他方脳性麻痺研究所の成果を大ならしめるために資金の獲得に努力したいと考えているが、出来るだけ近

### 初潮教育普及事業 に参画の喜び

大村 ひ さ ゑ

初潮教育普及事業//これは旧冬毎日新聞がその家庭欄に最大活字を以て報道した通りであるが、その報道に正報が欠けているのでここに訂正をし、一応かいつまんで報告し、よろこんでいたゞき度いと思う。

第一にこの事業の主催は山本杉先生が理事長である財団法人日本母子衛生助成会である。そしてこの会は理事長が最高責任者であり、従って会長はいないのである。

昨秋十一月廿九日の日本女医会評議員会の席上、山本杉先生から「初潮教育の普及を念願し、企画しているが日本女医会がこれに参画してはどうか」という正式申書が提出された。

そして、この事業は科学者であり、女性であり、母性である女医が協賛する最適の仕事であると思うから、と山本先生は付け加えられた。

茲で私は私なりに駄足を加えて見たと思う。今日の社会の最も大きな悩みは絶ゆることのない非行少年の横行である。

い将来に第三の仕事として第一、第二の仕事の援助できるような収益事業をやり、明るい事業形態としたい願いを持っている。社会福祉法人鶴風会理事でもある私は日本女医会の皆様にひきつづきご支援をいただきたいというこゝとを紙上をおかりしてお願いする次第である。

何故にこの非行が斯くも激増したのか、これはとりもなをさず道徳観念の消失、即ち人間としての善と悪とのけじめがつかなくなつてしまつていゝからである。人間としてはいゝまでもなく動物とのちがいを言うのである。

ここに改めて取り挙げるまでもないことであるが、吾々が取扱つていゝ現代の子供の身体の成長振りは戦前に比すべくもなく、全く目をみはるばかりである。昔は生下時体重が男児は三疋女児は二疋八百が標準とされていたが今や三疋五・六百が普通になつてしまつた。児童の体重また然り、昔日の小学校六年生の体格をちやんと四年生が具現している。

身体が大人に等しくなりながら精神成長が全くこれに伴わない。このアンバランスが非行の最大の原因であろう。成長した肉體から動物的本能のみが先走るのも当然であり、動物と同じではないけないという指導を怠つて居りはしなかつたかと今更のように臍を噛む思

その指導のそもそものはじめが初潮教育ということになる。初潮教育は一体誰がするか。子供の身体をみることに母親に如くはなえずはいつても、母は親しすぎて甘えすぎている、厳格さを加味したい初潮のような話には不向きな面もあり、また子供に納得させるだけの専門知識の不足もあろう。体育の男の先生では駄目、家庭科の女の先生にも亦養護の方々に一寸云々と言うことになる。とやっぱり校医が、それも男医よりも最適任者は女医ということになる。先ずわが日本女医会の独壇場ということになる。

敗戦で四散してしまつた人と心をかきあつめるようにして、ようやく再発足した日本女医会である、いつかも言つたことだったが、故佐藤やい先生はこの日本女医会の会つくりと生命をかけたのだつたが、それに対してはも會員は「日本女医会は何をしていゝ。会費ばかり取り立てゝ何等の恩恵も与えない。全国女医の融和の会、恩親の会というが懇親ぐらゐに大袈裟な旗じるしの必要もなかるうに」等々、批判の声はいつもきびしいものだった。しかし先づ全国に支部を確立し、その力を集めて本部としての仕事をと願つておられたのではなかつたらうか。無袖、素手では何事も出来はしないのだから。

その待望の日本女医会の仕事、佐藤先生が苦しみ探し求められていた仕事、日本女医会に最も応わしい仕事が見られた、与えられたのである。参議院議員山本杉先生の力で、佐藤やい先生の同級の山本杉女史の提案でこの仕事が出現したのである。衰微して来た日本の道徳をわれわれ日本女医の力で再び昂揚させることが出来るのだ。

もろもろの言辭、手段を弄して、やれ戦争放棄だ、平和運動だのと行列などつくりだしても、女医はこの事業によつて自らの職務観見がそのまま立派に世の非行を治し、平和社会を築く手段なのである。人を治し、国を治すとなれば、これはまことに後藤新平伯を超しそうである。

初潮教育普及事業を提唱、企画された山本杉先生の探測遠大な御思慮には只々感じ入るばかりであり、その大仕事を日本女医共催にまで持込んで下さつた御配慮に対し満腔の感謝を捧げるものである。

初潮教育普及事業の実施方針を簡単に記す次の様である。  
主催 財団法人日本母子衛生助成会  
共催 日本女医会  
日本PTA全国協議会  
全国小学校長会  
後援 文部省  
厚生省  
全国都道府県教育委員長協議会  
全国市町村教育委員会連合会  
以上の構成によつてこの事業が実施されるのであり、事業の運営、推進をはかるために特別委員会がもたれる。この委員会は母性衛生の第一課としての初潮教育を生活、社会環境の変化に伴う最も適切な指導の研究と普及をはかるために、母性医学関係者、教育関係者及び行政関係者、社会一般団体等により編成し、委員会は教材部会、教育部会及び普及部会を設けて強力なる推進に努力する、ということになつてゐる。  
従つて教材部会としては指導用テキスト・スライド・録音テープ、解説書

母親用テキスト等を用意する。
教育部会の方針としては全国都道府
県代表者二三名を東京に招致して三
日間位のセミナーを実施する。

亦都道府県では全国セミナー受講者
を指導者として管内地域各小学校代表
者を対象として都道府県セミナーを行
う。この学校代表受講者が五・六年生
女子児童とその母親を対象として学校
講習会を開くことになる。

これ等対象学校数は全国で二二、六
七七校であり、対象学童数が一、七六
八、〇〇〇人である。
目下セミナーの企画(案)としての
都道府県数四六。制令市二九のこれ等
から各二名の予定で東京に招致し、三
日間を講義、講演、ディスカッション
及び見学其の他という予定である、会
費は無料。

講習に必要な費用及び参加者の旅費
及び宿泊費教材費等は全額主催者たる
財団法人日本母子衛生助成会が負担す
る。

以上が現在までに委員会に出た条項
のあらすじであるが、この中にも(案)
の部分もある。次回には尚詳細の報告
も可能と楽しんでいる。

この様な素晴らしい企画も野にあって
は到底望まれないことであつた。
この意味からも吾々は今夏の山本杉
先生の重選のためには是非努力しなけ
ればならない。
幸い山本杉先生は今度は早くも日本
医師会が全国区唯一人の医系議員とし
て公認されたので吾々も医師会の先生
方に対しても心易く、そして押強くお
願ひすることが出来る。とにかく頑張
つて目的を達し、行政府に在られる山
本杉先生から次ぎ次ぎと価値のある日
本女医学会の仕事を持ってもらわなく
てはならない。

◆◆新年に憶う◆◆

上田 葉

皆様御元気でよい年をお迎えの事と
お喜び申し上げます。そして尚一層の御
発展をお願いのり申し上げます。

昨年は日本女医学会は佐藤会長を失
い、東京はオリンピック・オリンピック
で落付かず、私自身も恩師を失い、
十二月には感冒の流行とかその他で手
紙一本書く暇もなく、新年になつて十
日、やっと少し落付いて来ました。
考えてみると女医学会の理事の末端に
加えられて三年、立派な先輩の多くに
らつしやるのにあつかましいと思ひな
がら、諸先生の御熱心さに接して、一
年一年女医学会が本当に自分達のもで
なければいけないことがわかつて来ま
した。四、五人寄つて女医学会の話にな
ると、

Aさん、入会していい事があるの?
Bさん、会誌が来るから会員らしい
けど、別に何も無い。
Cさん、直接我々に関係ないから、
会費が無駄ね。
Dさん、支部会を開くといつたつて
誰も出席しないのは興味ないからね。
Eさん、国際女医学会に出席出来るの
は理事だけ?

こんな残念な話が聞かれます。皆
ではないが例え一部の人のしる、この
よな考え方の居られるというのは我
々の努力が足りないのだと、つくづく
申訳けなく思います。どんな事でも一
生懸命自分の事として考える人と、そ
うでない人が居りますが、総会や支
部会にだけは出来るだけ多く出席して
頂いて会から離れず、関心を持って頂
く、それだけで一つの進歩だと思いま

す。出席すれば自然関心も持ち、会費も
集る、会も発展すると思う。魅力のある
仕事をしたい会に関心を持つて頂きたい
と思うが中々経済その他のことでは仕
事も思うようには出来ないと思うので、
出席して頂いて、会に関心を持つて頂
き、そして女医学会としてでなくては出
来ない何かをしてみたい。各同窓会で
はそれぞれの立派な事業をして居られ
るので同窓会単位では出来ない何か仕
事があつていゝはず、御意見おきかせ
頂き考えたいと思ひます。
又一般に知られて居なかつたのか、

臨時評議員会記録

森 千 鶴
丸 山 芙 実

例えは昨夏の東京都医師会とニューヨ
ーク、カウレイ医師会の会に、ニュー
ヨークは私が女医であつた。そして
男の先生は殆んどが夫人同伴。もう少
し日本女医として何かとあつてよかつ
たと思ふ。

地区医師会でも女医の団結は学校別
では中々まとまり切れないものがある
と思ふ。
医療問題もやかましくなつて来た。
女はとかく政治に関心がうすく、人ま
かせて居るが、女医学会は他の婦人団
体に比べると何か弱いものに思われま
す。

とりとめのないことを考えて居りま
すが、今年も又種々のことがあるでし
よう。名実共に充実した女医学会に発展
するよう、努力して行きたいもので
す。(四〇、一、一〇〇) ×

去る昭和三十一年十一月廿九日(日)至
誠会本部会議室に於て常任理事会・理
事会に引続き臨時評議員会を行なう。
通信発送数(一三三)出席者数(三十
六名)委任状(六〇名)評議員会成立。
龍会長挨拶につゞき庶務報告(森理
事)四月以降十月迄 常任理事会五回
理事会四回 日本女医学会第九回総会
(六月十四日)
物故者七名 島崎光子(富山県)
富田道子(岐阜県) 寺田尚子(山形
県) 神部千代(目黒区) 鼎俊子(鹿
児島県) 毛利孝子(島根県) 野上
富由(岡山県) 以上七名に対し黙禱

於ホテルオークラ
会計報告(山口三重理事)
特に支出の部では国際女医学会費が二
年分のため目立ち、収入の部では故佐
藤会長ご遺族よりの百万円の寄付あり
と説明が加えられた。

次に議題について
龍会長より「来年度総会の時期と場
所について」第一候補になつていた名
古屋は都合上取り止めとなり宮城県仙
台市の関清子支部長よりのご承諾あり
四十年五月十五日、十六日仙台市に於
いて行なう事に決定した。

「本会に監事二名おくらに關して」至
誠会阿部秀世、加多乃会松井とし、以
上二名に決定、全員異議なく承認。
吉岡副会長、日本女医学会理事竹内茂
代及三輪田繁子両先生が十一月三日、
生存者としての叙勲の沙汰あり、昨廿
八日「ホテルオークラ」にて先輩諸
女史の栄誉を發する會が開催され参
會者多く盛會であつた事、
尚日本女医学会より祝として壹万円を
支出した事のご報告あり、

龍会長、来年六月参議院議員に再出
馬の山本杉理事の選挙後援会(後援会
々長吉岡ふさ)の件推薦状を出す件に
ついて理事会の承認及評議員会の賛同
を得たきむねを計られ、種々御意見あ
るもほぼ全員賛成した。

山本杉理事、日本母子衛生助成会の
件として、(1)乳幼児傷害保険に關する
件、これは生まれつた子供が千円を掛金
し五年間掛捨て、限られた疾病(日
本脳炎小児マヒ等) 並交通災害につき
給付する災害保険の一種、これに日本
女医学会が共催する。
(2)「母と子を守る国民運動」の一端
として初潮教育と子供に対する性教育
の普及事業等詳しい説明があり、適切
なる問題としてとりあげ、日本女医学
の仕事としてしんげんに考え、実行に
移したいとの御意見であつた。

会誌発行 五月 八月 十月
名簿十二月発送予定
六月六日 国際女医学会副会長ロイドグ
リン女史外三名歓迎会於八芳園会
員の出席数三十四名
六月十四日 昭和三十九年度日本女医
会総会、於日比谷松本楼
六月二十一日 第十回国際女医学会(於
オスロ)に参加出席のため長山トシ
団長他一行二十六名出発、七月三十
日帰国
七月二日、三日 日米医学会総会へ代
表七名参加
七月二十九日 タイ国女医学会長歓迎会



(青い鳥学園正門前)

### 日本女医会愛知県支部秋季総会

愛知県支部長 森川みどり

方針としては(1)全員賛成  
 福田幹理事 日本女医史の書評が朝日新聞紙上に掲載され、亦十月二十九日テレビドラマ風雪に因ってNHKにも行き、日本女医史は好評である。尚残本百二十冊あり、ご購読頂きたい。亦編集につき御意見もいただき、原稿をどしどしお寄せ下さい。

小野理事、タイ国女医会より御札としてタイ国独自のめづらしいうちわ五本寄贈があった。尚次回総会(カナダ)への出席者の募集を会誌に掲載する件につき報告あり、松岡宏子理事より是非次回国際会議の議題を出し詳しく会誌に発表していただきたいとの発言につき山本杉理事より第一回、第二回は今回のテーマはこれだということ事も詳細に附記してはとの意見あり、小

十一月廿九日(日)三ヶ月前から予約計画されていた、日本女医会愛知県支部の総会をレクリエーションを兼ねて空の青さに染まりそうな晩秋の昏の日に催した。午前九時半出発、車中、来春より始める地域社会活動の第一歩である、婦人、子供の健康を護る相談及び指導の会に就き、会員に計りつゝ、一行廿一名、大型バスにゆつたり席をとつた。バスの車掌さんから「やはり婦人会の方々のお集りの賑やかさとは違って品のよいお賑やかさ」と感服されたり、つゞいて「私達にはむづかしいこととはわかりませんが、私どもにもあまり負担のかゝらない様頭張って頂き度い」と医療問題にも無関心でない発言があった。十時半、今日の第一目的たる、県立青い鳥学園(股体不自由児施設)着、熱心な主事さんの御説明に、

野理事から次回(カナダ)国際女医会総会の議題は「女医の活動能力についての利用率(活動能力データー)」とでも訳すべきでしょうかとつけ加えられた。

最後に鶴会長より閉会の挨拶あり、臨時評議員会は終了した。

評議員会につき水たき料理玄海にて懇親会を行う。なごやかなふんいきにつつまれ風味豊かな水たき料理に舌鼓を打ち緊張のほぐれた一時を過ごした。席上逗子中村先生の「王将」演舞、これはクラスメート山本杉先生来年の参議院議員選挙ご出馬へのはなむけとしての口上あり、又久方振りに真鍋先生のソプラノ独唱もひとしおの感興をそえ、親睦の感を深めた。七時半散会

専門的な質問が、治療面、生活指導面、職能指導面、教育面にまで活発に次々寄せられた。主事さんも嬉しい悲鳴を挙げられた。支部からの寄付金一悲鳴と会員加茂裕子姉の御配慮による明治キャンデー一行季をお土産にして、各自思いの感慨に耽りつゝ正午陶郷瀬戸市着。直に市民センターに現代陶芸作家による作品並に古陶磁器の展観を心ゆくばかり観賞の後、そのインスピレーションを胸に、日展系工芸作家鈴木八郎氏を訪れた。各々轆轤による茶

### 静岡県支部総会報告

文責 小野田 依子

十二月十三日(日)午前十一時半から静岡市の齋作に於いて女医会を開催しました。県医師会長東先生と参議院議員山本杉先生と大村ひさる先生をお招きしての会は川野辺静岡支部長のそつのない御挨拶とで、盛大にそしてなごやかな中に議事が進められました。司会は鶴風会の伊東カメ先生、一、開会の辞 関本久栄先生(鶴風会) 二、支部長挨拶 川野辺静先生 三、来賓祝詞 県医師会長医療費問題について 四、事業報告 静岡県結核予防婦人会 シール封筒販売協力、結核検診協力 静岡県婦人会館の健康診断日に各自専門科目で奉仕 日米協会に出席 西国相互の理解信頼を深める事業に協力 外国との姉妹都市提携に委員を送る。

五、会計報告 川野辺支部長は東京女子医大の辞令を受けたため、支部長を辞任されるにあたり支部長推せんにより、本多ちよ先生に決定東中西に各学校卒の代表が評議員になるよう役員選出を行った。

六、山本杉参議院議員が議事の終了の頃御来場、早速主に医師会の医療費問題について現在までの状況及所感を述べられ最後に開業医の団結を強調されました。

七、大村先生の御祝詞をいただきました。日本女医会静岡支部の強力な活動及団結によって、日本女医会の昂揚に寄与するべく、決意をあらたにし会は記念写真撮影によって華々しく閉会しました。

八、郵送料を頂いておりますが、名簿送料百円を振替送金された会員の方には、あらためて領収書を出しております。

◎ 昭和三十九年度名簿送金いたしました。郵送料を頂いておりますが、名簿送料百円を振替送金された会員の方には、あらためて領収書を出しております。

◎ 会費十年分前納者  
 三輪輝子 木俣はま 林 豊子  
 近藤菊枝 吉田美枝 住田静子  
 原寿々代 寺島良子  
 (五年分)  
 岩本 薫 市川民慈子

後記  
 福田先生 いささかお疲れの御由、代つて後記を記す次第。  
 事務の小川さんから、日本女医史は評判がよく、先般、作家の吉屋信子氏から「おほめ」をいただいたとのこと福田先生の御苦勞も花咲いた感。  
 定方副会長先生が先日骨折をされ唯今聖ルカ病院に御入院中と承りました。速やかな御快癒を祈り上げました。会員全体の会誌でありますからひづみのない。然も女医ならではの記事の多いよい会誌でありますよう祈ります。(久保田)

昭和四〇年二月二〇日印刷  
 昭和四〇年二月二五日発行  
 編集人 福田 依子  
 発行人 日本女医会  
 発行所 東京都新宿区市ヶ谷河田町19  
 電話(三三)〇九六八  
 振替東京六九六八  
 印刷所 東京都港区麻布田島町63  
 福田印刷株式会社